

1学期が終わり、ほっと一息。夏休みは、これまでの記録を見返して子ども理解を深めたり、研修会に参加して教科指導や生徒指導、学級づくりについての見識を広げたりすることができる貴重な機会です。夏休み明けの子どもとの出会いを楽しみに、日頃できないことにじっくりと取り組むことで新たなエネルギーを蓄え、2学期のすばらしいスタートの準備をしましょう。



<小学校>

夏休み明けの話には 学級づくりのヒントがいっぱい！

「あれも、これもやらなくては…。」
「来月は運動会、落ち着いて学習したいけれど…。」
「せっかく身に付いた学習の規律が…。」

慌ただしくスタートしてしまう2学期。つい、学級全体に目を向けてしまいがちですが、もう一度一人一人と向き合ってスタートしませんか。

夏休みの作品に目を向けながら「Aさんはどんな気持ちでこの作品を仕上げたの?」、日記を読みながら「Bさんはどんな夏休みを過ごしてきたのかな?」、1学期を振り返りながら「Cさんが2学期にできるようになりたいと思っていることは?」



夏休み明けの子どもたちの話には、学級づくりのヒントがいっぱい。一人一人の子どもとの対話を大切にすることで、それぞれの思いを基盤にした学級づくりの方向が見えてくるのではないのでしょうか。

夏休みは大きな成長期 具体的な姿を認めることで保護者との連携へ

海や山へと家族で過ごすことが多い夏休み。しっかりできたことを認め合う機会を、様々な形で位置付けましょう。



- 1 夏休み帳、日記、作品、研究等、課題は早めに確認する。(一つ一つにコメントを)
- 2 積極的に話しかけてくる子どもと、話したくてもうまく関われない子ども、一人一人に合った声かけを心がける。
- 3 がんばりの様子を学級通信で紹介する。
- 4 作品や研究の発表会を計画し、がんばりを皆で共有しながら子どもたちの視野を広げる。
- 5 プール参観後の学級懇談会で子どもたちのがんばりを話題にする。

保護者が「先生も褒めてくれたよ。がんばってよかったね。」と認めることで、子どもはさらに自信を深め、2学期のスタートに弾みがつきます。

<中学校>

不登校の傾向や経験のある子どもへの支援

不登校の傾向や経験のある子どもの多くは、学期や年度の節目を「自分を変えるきっかけ」にしたいと考えています。

◆ 気になる子どもとの作戦会議をしましょう ◆

- ・2学期はどんな自分になれそうか?
(スモールステップの目標設定)
- ・助けてくれそうな人はだれだろう?
- ・困った(つらくなった)とき、どうしよう?

頑張るための準備として、まず、生活のリズムを整えることを提案してみましょう。

精神的に強いストレスを抱えている子どもには以下のような様子の変化が見られます。

朝起きない、着替えない、朝食を食べない、歯を磨かない、活動しない、風呂に入らない…

上記のような状態が「慢性化」しているようであれば、医療機関への相談も視野に入れる必要があります。



休み明け初日が指導の勝負どころ！

中学生にとって、夏休みは学習や部活動にじっくり取り組み、力を付ける好機ですが、誘惑が多い休みでもあります。夏休み明け初日は、生徒の小さな変化をしっかりとりえるとともに、2学期への期待を抱かせる場を設けましょう。



- 1 黒板に担任からのメッセージを書き、初日を迎える用意(宿題提出チェック表を、皆が見えるところに貼らない)
- 2 朝の会では、全員の顔を見回して、明るく「おはようございます」と挨拶
- 3 気になる生徒には、直接声をかけるか、生活ノートに返事を長めに記入
- 4 心配な生徒は、必ず保護者に連絡
- 5 スタート初日から3日までの生徒の様子を1週間以内に学級だよりで紹介

※課題が終わらなかった生徒への配慮を忘れず!
(学年で統一した対応を)